

分娩外傷後の会陰体損傷関連疾患(直腸瘻、肛門括約筋不全、後天的総排泄腔様状態)に対する外科的治療の結果報告

【研究課題】 当院で施行した分娩後の会陰体損傷関連疾患(直腸瘻、肛門括約筋不全、後天的総排泄腔様状態)の術後経過を集計し治療成績を評価する。

【研究対象】 2022 年 7 月から 2030 年 12 月の約 8 年間に当院で分娩後の直腸瘻について手術を行った、または行う予定の症例(約 200 症例を想定)につき、年齢、会陰裂傷の重症度、瘻孔径(瘻孔のあるもののみ)、発症から手術までの期間などの患者背景と手術時の出血量や手術時間、腔粘液酸性度(感染症の指標として)および便失禁スコア、術後再発の有無について後ろ向きに評価分析する。

【研究目的】 当院では会陰体損傷関連疾患(直腸瘻、肛門括約筋不全、後天的総排泄腔様状態)に対し人工肛門を造設しない、独自の会陰体修復術式での治療を多数行っている。手技が固定後の 8 年間の約 200 症例について、手術成績を評価し、最新のレビューと参照し、本手術法の既存治療に対する優劣を評価し報告する。

【公表・発表予定】 検討の結果は 2027 年 7 月の日本消化器外科学会総会やそれ以後の大腸肛門病学会などで報告予定。その後論文発表も予定している。

【データ取扱責任者】 副院長・外科部長 村上耕一郎

【お問い合わせ先】 副院長・外科部長 村上耕一郎 tel: 075-955-1151

ご自身の診療情報利用の中止をご希望の場合、上記お問い合わせ先にご連絡ください。
ご氏名、生年月日、受診年度をお伝えいただき、本人確認がとれ次第データ削除します。